第３回　下田市立小学校在り方検討会議【議事録】

日　　時	令和７年９月３日（水）14 時 00 分から 16 時 30 分
場　　所	下田市民文化会館　大会議室

開会　学校教育課　平川課長

ただ今から第３回下田市立小学校在り方検討会議を始めさせていただきます。 まず、下田市教育委員会教育長からご挨拶いただきます。

１．教育長挨拶　山田教育長

７月１日の検討会議に続いて第３回目となりました今日も予定通り多くの皆様にご参加いただき、大変感謝しております。第１回目、それからほぼ同じ内容でスタートした第２回目の趣旨を皆様にご理解いただいた上で、今日も２、３回目を開いていますが、後ほど改めて参事から今回の趣旨を申し上げ、後半の指導主事からグループワークを設定してもらう流れの中で今回の具体的な方向を示してもらいたいと思います。１回目のグループワーク後に 20 分間先生のご講義をいただく予定です。前回は、静岡大学教職員大学院教授の武井先生のご講義 30 分ほどをいただきました。今回、ご本人のご都合のために欠席ということですけれども、同じく現在静岡大学の特任教授の宮島明利先生にお越しいただいております。宮島先生はかつて、県西部の川根本町の教育委員会に席を置いていらっしゃいました。小規模小学校、中学校の強みを生かした特色ある教育を求めて、同じように学校のあり方協議会を立ち上げて、様々な研究や取り組みをなさって来られた先生です。ここにいらっしゃる方で前回の未来の下田創造プロジェクト会議に参加された方はもうお目にかかっているわけですが、宮島先生はその時の感想を次のように言ってくださっています。会議に参加させていただき、大変学ぶことが多く、楽しくも有意義な会となり、心から下田に行ってよかった。また下田に行きたいなと思いました。皆様と話をさせていただく中で、下田の教育の大きな可能性を感じることができました。下田の皆様とともに学ばせていただきながら、できるお手伝いをさせていただければと思っております。9 月 3 日も楽しみに伺わせていただきたい。ということで、このようなお礼のメールをいただいて、今日ここにこうしてお迎えしているところです。この後お話をいただきますけれども、宮島先生の紹介を兼ねまして皆様にもぜひ下田だからこその、豊かな発想を出していただいて、有意義な会にしていただけますようお願いします。なお、研究で大変ご多忙中の、先日の第２回プロジェクト会議にもご参加いただいた静岡大学教職大学院生で下田中学校教諭の田村先生にもご参加いただいております。また、同じく大学院生の笹瀬先生もリモートでご参加をいただいています。それでは皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

学校教育課　平川課長

続きまして、学校教育課参事より今回の趣旨についてご説明申し上げます。

学校教育課　宇仁参事

下田市教育委員会 宇仁でございます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。７月１日に行われました第２回では、静岡大学武井教授からご講義いただき、人口減少は衰退ではないこと、『新たな地域』を創っていくことで乗り越えるためには、未来を起点に、弱い人・地域に優しく、場の声を聞くことで可能性を見出し、自分の立場を超えて考え、使えるものは何でも使うといったたくさんのヒントをいただきました。その後の意見交換では、皆様から地域の良さを教育活動の中で活かしていこうといった様々な意見が出されました。本日は、先ほど教育長からの紹介にもありましたように、静岡大学宮島教授からのご示唆を賜り、前回お考えいただいた様々な意見をより具体化できる貴重な時間になると思います。本日、および次回の協議が、児童の学びや豊かな経験を育むための小学校の在り方に向けての提言につながるということを念頭に置きながらご協議いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

学校教育課　平川課長

ありがとうございます。この後、意見交換に入りたいと思います。指導主事お願いします。

学校教育課　山本指導主事

下田市教育委員会の指導主事の山本と申します。ここからは私が進行をさせていただきます。まず、本日の大まかな流れをご説明いたします。レジュメをご覧ください。本日も基本的には、グループワークとなります。はじめに意見交換Ⅰとして前回の検討会議の意見を思い出していただきながらこれからの小学校の在り方について意見の整理をしていただきます。その後、静岡大学　特任教授　宮島先生より「魅力ある小学校の創造」という議題で講義をしていただきます。最後に意見交換Ⅱとして講義を踏まえた上で、改めて小学校の在り方についての考え方、方向性をまとめていただきたいと思います。繰り返しになりますが下田市教育委員会としても統合・存続の二者択一にとらわれない在り方を模索していきたいとの思いがありますので、ぜひ忌憚のないご意見をお聞かせいただき、あらゆる可能性を模索し、下田モデルを構築していきたいと思います。それでは、早速意見交換Ⅰを始めます。まずは前回の検討会議の振りかえりをしたいと思います。前回は、静岡大学武井先生より、たくさんの研究事例などをもとに講義をいただき、多様な視点から子どもたちのためにあらゆる可能性を模索し、下田らしいものを創造する大切さを学びました。また私からは下田市の児童生徒数の推計や学級数の推移をお示ししました。それをもとにみなさんには、学校をより魅力化するための意見と課題や心配なことをグループで協議し、シェアリングまで行っていただきました。前回お示しした児童数推計や各グループからの意見をまとめたものを参考資料として机上に配布してあります。この後のグループワークで適宜ご活用ください。それでは意見交換Ⅰに入ります。本日の意見交換Ⅰでは、前回の話し合いも含め、統合するメリット、デメリット。今の学校数を残すメリット、デメリットを考えることで、意見を整理していただこうと思います。意見交換Ⅰでは、どのように解決するかは置いておき、まずは、それぞれどのようなメリット・デメリットがあるかを数多く、出していただき、みなさんの考えを整理する時間にしたいと思います。特に全体でのシェアリングは考えていませんが、意見交換Ⅱで活用しますので、まとめ用のワークシートに記入をお願いします。意見交換の時間は 30 分間とし、終了を 14：40 頃を目安とします。視点が２つありますのでファシリテ

ートする方と意見をシートにまとめる方とグループ内でうまく協働して進めてください。名簿一覧で★印のついている方がファシリテーター、〇印の方が書記をお願いします。今回は新しいグループとなりますので自己紹介等も交えながらグループワークをはじめてください。よろしくお願いいたします。

～意見交換Ⅰ～

学校教育課　山本指導主事

ありがとうございます。この後、意見交換に入りたいと思います。指導主事お願いします。続いて宮島教授より講義をしていただきます。前回、私から視察の報告として、宮島先生のお話と川根本町の取組を紹介させていただき、グループワークを行う際の参考としました。本日は、下田市の現状と取組をご理解いただき、下田まで足を運んでくださいましたのでさらに詳しいお話しが聞けることと思います。実は未来の下田創造プロジェクトを先月、１日に行い、宮島先生にはそちらにも参加していただいたのでこの２ヶ月で２度下田に足を運んでいただいております。それでは、宮島先生よろしくお願いいたします。

学校教育課　平川課長

ここまでの説明で確認したいことはありますか。

この後、意見交換に入りますので、確認した意見なども含めてご意見を伺えればと思います。よろしくお願いします。それでは意見交換に入りたいと思いますが、初めに現状説明なども含めて、指導主事お願いします。

学校教育課　山本指導主事

３週間ほど前になりますが、6 月 12 日に山田教育長、参事の宇仁、教育委員会企画主任でもある浜崎小学校佐々木教頭と私で川根本町に視察に行って参りました。トーマス、大井川鉄道で有名で県内でも有数の観光地でしょうか。人口は 5,600 人ほど、高齢化率は 50%を超えており、県内に於いても高齢化率が高い町です。視察地に選んだ理由は様々ありますが、その中でも今日の在り方会議を実施するにあたってみなさんの話し合う材料になるような取組事例がありましたので紹介いたします。

川根本町は、学校の在り方を考えていく際に RG 授業（れんけいグループ）という仕組みを考えました。この授業を実施するために授業の最適規模と質の学習グループを研究したそうです。例えば、合唱や体育の球技を行う際には、ある程度の人数がいないと教育の効果が高まらない。一方、算数等のいわゆる座学においては、少人数であったり、習熟度別が教育の効果を高めるため少人数で行っています。

お配りしている図は、RG 授業で集まった時の５・６年生の実践例です。５年生は１人の教師が 35 人規模の音楽の授業を実施しています。RG の時には、各校から集まってくるので、通常より多くの教員がいます。そのため少人数指導が可能になるので残りの手の空いた教師は、６年生の算数を少人数で実施。１

時間目は少人数の算数、2 時間目は大人数で音楽等の柔軟な教育課程が実現するのが RG 授業となります。これはあくまでも一例ですが、川根本町は、この RG 授業を経て、現在は令和６年４月より義務教育学校が２校開校されています。川根本町は、義務教育学校の制度制定前の 2013 年から学校の在り方検討会議を設置し、川根本町独自の取組を考え、川根の子どもたちにより良い教育環境を提供してきたと説明を受けました。以上、報告となります。

静岡大学特任教授　宮島　明利　氏

改めまして、こんにちは。静岡大学の宮島と申します。皆様、本当に熱心に意見交換をされていてすごいなと思いながら、各グループを回らせてもらい、皆様の意見をお聞きしました。この後、私の考えを発信しながら、先生方とともに川根本町でどんな学校を創ってきたかということを伝えたいと思います。ポイントのみ絞って説明します。

私は、川根本町が静岡県で 1 番進んでいると思いながら、先生方と魅力ある学校づくりに取り組んできました。下田市では、未来をつくる子どもを育てる中学校があり、そこに向かって、どう小学校があるべきかというところが 1 番のポイントになってくると思いますので、そんな内容の話をさせてもらえればと思います。

下田市の小学校のグランドデザインを全部見せていただきました。どれもとても素敵で、私が話すことはないのではないかと思っています。でも、話し終わった時に、「今までの取り組みで OK」、「もっと面白くできそう」、「もっと色を出そう」、「未来を創るってそういうこと」、というようなことを感じていただけるよう話をさせていただきます。今、話し合いの中でメリット、デメリットという話をされたと思いますが、２つはいつも背中合わせです。デメリットはメリットであり、ピンチはチャンスなんです。だから、現状をきちんと受け取り、そこでどうするかということが 1 番大事になってきます。 7 つの小学校がきちんと魅力的であることが大前提の中で、“再編するかしないか”、“統合するかしないか”という問題が初めて議論されていくのだと思います。

これは私見ですが、「教育を決めるのは子どもの数じゃない」と思っています。今日、話すのは、私が在籍した 36 人の小学校の話です。私は、小学校、中学校の両方を経験していて、大きな学校、小さい学校を経験し、その様子を全て知っている中で、私は小さい方が良いと言っています。川根本町でも、胸を張って 36 人の学校を創ってきました。小さいからといってできない理由を探すことはありません。できないと言ってしまったら思考停止の状態ができて、魅力ある学校づくりは停滞してしまいます。少しずつでいいので必ず進化させていくことが肝心であり、決して小さいことは悪いことじゃない、小さい町だからできることがあるといつも考えながら、川根本町型を創造していきました。納得解のスタート型から常にアップデートさせていくというのが持続可能な学校や地域です。

今、予測困難で、変化が激しい時代といわれる中、そのスピードはこれからもっともっと速くなります。明日、どうなるのかわからない時代を今の子どもたちは生きていきます。お示しした「周回遅れのトップランナー」という言葉は、変わらない学校を思い切り皮肉っています。社会から取り残されて周回遅れしている学校、おまけにトップを走っているため、遅れていることに気づかない、気づこうとしない学校、これではいけないのです。これからの時代は「ローカル・オプティマム」、学校ごとに個別最適化してい

くことが大切で、それぞれに地域の良さを生かして特色を出し、他と同じである必要はないという考え方です。そのため、子どもたちのために変えるべきことは変える、先取りしてその学校にフィットした魅力づくりをしていくことが必要になってきます。みんなが「面白いね」となるように、学校を取り巻く教育資源を最大限に活かしていくこと、子どもたちが自分たちで育っていけるような環境を創らなくてはいけないのです。

その中で、川根本町は、保護者や地域の方々は、小さい方がいいという選択をしました。小さいからできることがあるという考えで、様々な工夫を行っています。例えば、川根本町でできた義務教育学校には定期テストはありません。テストがなくても自ら学ぶ子を育てる、そういうシステムが学校づくりの中に仕込まれているのです。

また、義務教育学校ができる前、私の在籍した小学校は、子どもたち自身で“楽しい学校を創る”ことが最上位目標でした。楽しい学校になったら「もっと楽しい学校にしよう」と進化していきます。「楽しむ」とはどういうことか、子どもたち自身が自分たちの言葉で掘り下げて、全校で共有し１年間が創られていきます。コロナの年も、辞めた行事は１つもなく、全て実施しました。楽しいことはやめない、どうしたらできるかをみんなで考えて形にしていく小学校でした。「去年を超える」、「超えられない伝説をつくる」、「日本一ワクドキの学校を創る」というその年ごとの子どもたちのこだわりを大事にしながら学校づくりを行ってきたのです。

最後に、保育園の先生もいるので、0 歳から 15 歳までをお考えください。0 歳から 15 歳を考えた時に、小学校はどうあるべきかということが最大のポイントです。小学校だけのことを考えて学校づくりしていっても、下田中学校につながりません。下田中学校で行っている魅力ある教育につなげるために、６歳までのキャリアを生かし小学校でどんな教育が必要なのかということを、各小学校で真剣に考えることが大切です。そこで、もしかしたら再編が必要な時がくるのかもしれません。でも、その前段階として、７つの小学校を７色の魅力あるものにしていくことが、まず、はじめに行わなければならないことです。７色の小学校で育った素敵な子どもたちが、中学校で１つになり、それぞれ良さを融合させ化学変化を起こし、さらに魅力を膨らませていくようなイメージで 15 歳の出口をつくっていただければ、下田の未来はとても明るいのではないかと、とても楽しみに思いました。ありがとうございました。

～休憩～

学校教育課　山本指導主事

それでは、続いて意見交換Ⅱとなります。意見交換Ⅱでは、意見交換１で整理された意見をもとに、デメリットを乗り越える下田ならではのアイデアについて協議していただきます。意見交換Ⅱは、15：50より、各グループの意見を発表していただきますので、意見交換Ⅰ同様にワークシートをまとめながら進めていただきますが、今回は付箋を貼るスペースと意見をまとめるスペースに分けてあります。繰り返しになりますが、今回の意見が次回の検討会議に反映しますのでたくさんの視点からのアイデアをお願いいたします。

～意見交換Ⅱ～

～共有～

A グループ

A グループです。よろしくお願いします。話をしていくと似たような意見が出てきて、まずは、他の小学校との交流だとか合同の活動はできたらいいだろうなっていう話になりました。同学年の子どもたちとの交流が減ってしまうから、そこはなんとか解決することではないかなという風なことで意見が出されました。それから 2 つ目に出たのが、実際にそういった活動をしていく中で、学校の通学方法もそやご飯も含めていろんな配慮だとか、色々な工夫が必要になってくるかなという話が出ました。それから、それぞれの地域ならではの自然体験や活動があると話に出ていたので、それはぜひ活かしたいなっていう話が出ました。その中で、自分の地域、学校のいいところも十分体験させてあげたいし、あるいは、自分の学校、地域にはないけど、向こうの学校、地域に行けば体験できるよっていうのがあればというようなことが出てきました。7 つの小学校はそれぞれが自分たちの色を出していくだろうし、将来的に形が変わっていく時には、またその学校のどういう風に変えるかっていうのも選択肢が変わってくるかもしれないなと思います。いろんな活動で、体験とかそういったものは、今の段階でもいろんな選択ができたり、興味、関心、色々なことが挑戦できたりっていう状況は作れるのかもしれないなと期待をしました。以上です。

B グループ

B グループです。デメリットとして体験が少なくなるっていうことが 1 番に挙げられました。それと交流です。交流というのは、例えば 0 歳から 15 歳、あとは高校を含めたビジョンを入れてもいいんじゃないかと話題になりました。体験、交流をするためには、移動手段。先ほど出たように、マイクロバスを活用したり、あとは地域のコミュニティ、人材の活用っていうのが出ました。もう 1 つ、子どもたちの思いを聞く、活かす、子ども会議っていうので、子どもたち自身が考える場っていうのも出ました。そういう中で、発信の工夫っていうところで、7 色の学校の発信の工夫っていうのも出ました。こういうことをやるためには、市教委の支援や、スタッフを増やすということも避けては通れないということも出ています。今回もし小学校が 1 つになったとしたら、逆に認定こども園、小学校、中学校という、大きな組織にはなるけど、移動をマイクロバスでして交流を持つとか、そういうダイナミックな感じが個人的にすごく心に残ったので、発表させてもらいました。以上です。

C グループ

C グループです。まず、今の学校のまま残すならどんな方法があるんだろうっていう意見がいくつかありました。やはり人数が減ってきているというのもあるので、交流を充実させたいというようなことがありました。ICT、タブレット等を活用するとか、いろんな地域学習にお互い交流して出会うっていうようなこともできるかなという声がありました。もう 1 つが、統合するならばどんなことができるかなというので、1 つは、やはり通学が遠くなるというのがあったので、中学みたいに 1 校ではなく複数校にな

ることで、地域ともそんなに離れないかなって。そのためにはスクールバスがあるといいよねっていう声がありました。もう１つ、複数校になったとしても、交流したりして地域の活動に行く。それぞれの地域の活動には参加可能っていうのはありかなって思っていました。もう１つ、思い切ったこと書いたんですけど、それぞれの学校を特色を出すことで、市内学区なし、その色の学校に行きたいという学校を選択するっていう方法、これは、かなり思い切ってしまったんですけど、そんなのも学校の色というお話がすごく印象に残ったので出しました。中学でどちらにしても１つになる。各校の色があったとしても、そこまでの育ちはやはり共通していないと、中学に行ってそれがうまく融合していかないかなっていう意見も出ました。以上です。

Ｄグループ

Ｄグループです。Ｄグループでは、すぐにできそうなものと、やってみたら面白いけれども実現は難しいかもな、夢かもなっていうことで考えてみました。地域の方に授業に入ってもらうというのは、現在やっている学校もあるということでしたので、行事等も含めて今後も地域の力を借りた学校運営っていう形でできるんではないかなという形で意見が出ました。あとは、総合学習で、各校で色々とやっているかと思いますけれど、学ぶテーマごとに、例えば私は下田小学校に行って、ここの学ぶテーマでやってみたいっていうのを自分で選んで、総合学習の時間は移動するとかっていうことがあってもいいのかなっていう意見。また、4 年生か高学年から自分で学ぶ授業や学校を選ぶことができる単位制の課程っていうものがあっても面白いのかなと。これは学年１年間っていう形でもあり得ますし、例えば２学期はやってみようとかっていう形でもできるのではないかなと思います。そのためには、今は下田中学校に２台のスクールバスがあるんですけれど、小学校にはないような状況。認定こども園のバスは、こども園しか使えないっていう状況みたいなので、市の子どもたちみんなが使えるバスっていうものが確保されているということが前提としてはあり得るのかなとなりました。子どもと限定せずに、みんなが使える場所っていうものがあるといいなっていう意見が多く出ました。また、これ、川根本町でちょうど行われている実践で、私も面白いなと思ったんですけれども、6 年生は合唱指導の担当の先生が１人２人で担当し、残りの教員で、算数を教える。算数は結構中学入ってから苦手意識持っている子も多いので、算数に残りの教員がつくことによって、少人数でたくさんの教員が見ることができるっていう体制が作れるかなと思います。また、例えば、1 年から 3 年生は各校の交流を、4、5 年生は合同授業の実施を、6 年生から中学校まではもう教科担任制で中学校で授業をするっていうのも１つではないかなというような意見も出ました。大人数がいいとか少人数がいいとかというのを自分で選べるという、学区に縛られないっていうことも１つかなと思います。また、統合するかしないかという過渡期だからこそ面白いアイデアがたくさん出て、逆に学校運営が安定していたらこういう話が出ないってことなので、ピンチはチャンスっていうことで、すごく面白いなと思いました。以上です。

学校教育課　山本指導主事

以上でグループワークを終了いたします。活発なご協議ありがとうございました。それでは宮島先生からご意見等いただければと思います。よろしくお願いいたします。

静岡大学特任教授　宮島　明利　氏

実は、川根本町の１番最初のあり方協議会の時に、「小学校１校、中学校１校にする」という意見も出されました。しかし、その時に出された結論は、小規模校であるそれぞれの学校の良さを活かした教育をきちんと行っていくこと、つまり６小中学校の存続です。川根本町だからできる川根本町ならではの教育を形にしない限り、再編・統合してもやはり萎んでいってしまうのです。だから、それぞれの学校の色を出し、魅力ある教育を子どもたちのために施していくことが、実は１番の町民や保護者への説明になるということです。

それを私たちは子どもたちから教えてもらい、義務教育学校に再編する時、本川根小で行ってきた教育の流れを引き継ぎました。「定期試験はない」、中学生の私服登校もＯＫの「制服の選択性」など、様々なことを子どもたち自身が決めていくというようなシステムです。義務教育学校を開校しようとした時の保護者説明会が開かれましたが、出された意見は２つだけです。１つは「ヘルメットを選択にするのはなぜか」です。「家の前からスクールバス乗って学校の昇降口まで来るのに、ヘルメット被ってくる方が逆におかしい」と納得の回答をしました。もう一つは「部活をもっとやりたい」という意見です。なぜ２つしか質問が出なかったというと、子どもたちも、保護者も、常に進化をしていく「川根本町ならではの学校」に満足していたからなのです。子どもたちが喜んで登校する学校を創っていれば、保護者は応援するしかない、地域の方も進んで関わり支えてくれるのです。議論の末にいざ“再編”となった時、きちんと子どもたちの姿で周りに説明できるか、やはりそういうようなスタンスで学校づくりを進めていかなければいけないのではないかと思っています。

川根本町では、私が町教委の管理主事の時、最終的に２つの義務教育学校に再編することが決定しました。当初は、シミュレーションとして 10 以上の案を出して、町民や保護者に細かく説明を繰り返し、あらゆる意見を出し尽くしてもらいました。包み隠さず、全てをさらけ出し、２年間議論した上で町民の意思で選択した再編です。慎重に議論を重ねた理由は、再編すると簡単には元に戻せなくなるからです。でも、決めるときはきちんと腹をくくり、責任を持って進めていかなければならないと思っています。

今日出た素敵な意見をぜひ、各学校で形にしていってください。安心して失敗できる学校が実は子どもが育つ学校だと思っています。先生自身、失敗するのが嫌なので、小規模校になればなるほど、子どもたちにも失敗しないようについ先回りをして助け船を出してしまいます。反対なのです。子どもたちが自分の意思で選択・決定して行動に移し、出た結果からそこに学びをつくってあげることこそが、教員や周りの大人の大切な使命なのです。トライ＆エラー、失敗も子どもたちの学び、ぜひ皆さんの発想で色々な取組を進めていってほしいと思います。以上で終わります。ありがとうございました。

山田教育長

長時間にわたってありがとうございました。色々な話がありました。宮島先生のお話、大変参考になりました。下田で参考にできそうだなということと、真似できないなと思うことがあったと思います。ただ、７つの小学校が一つの中学校に集まるという、この構図というのは全国的にも私はなかなかないと思います。大体２、３校の小学校が一つの中学校というパターンありますけど、７つの小学校、しかも１万 8000 人いたら、小さな町でこういう構図が出来上がっているが、一つの下田市の大きな特徴だなと思

っています。それぞれの小学校が山で育つ小学生もあり、海で育つ小学生もあり、川沿いに育つ小学生もあり旧町内で育つ小学生もあるということで、それぞれ特色がやっぱりあるんですよね。ですので、宮島先生は７つの色という表現を使ってくださった。宮島先生は、全ての小学校のグランドデザインを熟読されて、今回に臨んでくださっているので、十分小学校のことはお分かりかなと思いますが、実際に学校に足を運んでいただければと思います。今日色々な発表がありましたけれど、同じだなとかが結構あったと思うんです。だから、今やっていることもあるし、これからできそうなこともあるし、不可能なこともあるし、ただ、不可能を可能にしていくっていうことも可能だと思います。そういったことを含めながら、今日出された言葉を事務局の方でキーワードを整理させていただき、カード作りをさせていただいて、次回はそのカードを使って、提言というものに進めていただければと思います。宮島先生、本日は本当にありがとうございました。皆様に関しましても、お忙しい中今日は長時間ありがとうございます。また次回もよろしくお願いしたいと思います。ありがとうございました。

学校教育課　平川課長

以上をもちまして第３回下田市立小学校在り方検討会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。